

令和2年度厚生労働科学研究費補助金
(障害者政策総合研究事業（身体・知的等障害分野）)

研究課題名(課題番号): 強度行動障害者支援に関する効果的な情報収集と関係者による情報共有、
支援効果の評価方法の開発のための研究 (20GC1005)
分担研究報告書

分担研究課題名: 強度行動障害者支援のための ICF、ICT を活用した PDCA サイクルの運用マニュアル案作成のための研究

主任研究者: 日詰正文 (国立重度知的障害者総合施設のぞみの園)

分担研究者: 安達 潤 (北海道大学)

井上雅彦 (鳥取大学)

研究協力者: 岡田裕樹 (国立重度知的障害者総合施設のぞみの園)

内山聡至 (国立重度知的障害者総合施設のぞみの園)

研究要旨

本研究は、先行して実施した先行研究調査や強度行動障害者支援を行う事業所の実態調査を踏まえ、上記の PDCA サイクルに沿った取り組みのパッケージ化についての検討と、支援現場で活用するための運用マニュアル案を作成することを目的とした。

ICF に関しては、安達らの社会実装研究において効果が検証されている「ICF 情報把握・共有システム」、記録の収集と分析を行う ICT ツールとしては、井上らが開発した「Observations」を踏まえて、支援現場で活用するための運用マニュアル案を作成した。

A. 研究目的

1. 背景

本研究の目的は、見えにくい個々の障害特性を理解し、適切な環境調整を行うことが支援原則とされる強度行動障害者支援の現場において課題となっている支援対象者の全体像の理解や、効果的、効率的な情報収集と情報共有について研究を行い、ICF（国際生活機能分類）や ICT（情報通信技術）などを含めた支援現場で活用できる PDCA サイクルを示すことである。

具体的には、①ICF を用いて、支援対象者の全体像を理解する、②解決につながる、当事者自身のニーズ、活用できる特性やニーズを「冰山モデル」の様式で整理し支援の焦点を明確にする、③情報収集の労力負担の解消や客観的データ収集を目的とした ICT の活用、④支援チームによる支援結果の分析と支援計画の修正を行う、といったプロセスである。

2. 目的

本研究において行う先行研究調査や強度行動障害者支援を行う事業所の実態調査を踏まえ、上記の PDCA サイクルに沿った取り組みのパッケージ化についての検討と、支援現場で活用するための運用マニュアル案を作成することを目的とした。

B. 研究方法

本研究は、先行して実施した「強度行動障害者支援に関するアセスメントと記録、情報共有等についての先行研究調査」及び「強度行動障害者支援事業所におけるアセスメントと記録、情報共有等の実態についての調査」の結果を踏まえて、運用マニュアル案を作成した。

C. 研究結果

先行研究調査、現場支援者へのヒアリング調査を踏まえて、運用マニュアル案を作成した(資料)。

ICF に関しては、先行研究調査で把握したツールであり、社会実装研究において既に効果が検証されている安達らが開発した「ICF 情報把握・共有システム」を取り入れた。また、記録の収集と分析を行う ICT ツールとして、先行研究調査で把握した、井上らが開発した「Observations」を取り入れた。

これらを含んだ PDCA サイクルのイメージは図 1 の通りである。

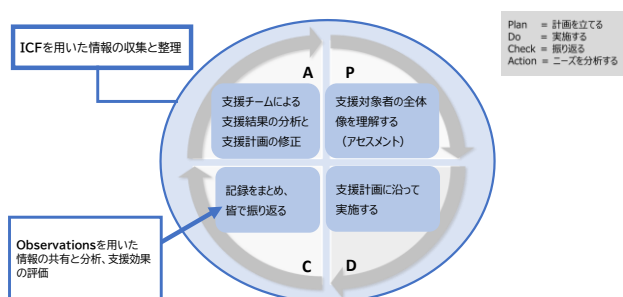


図 1 PDCA サイクルのイメージ

D. 考察

ICF については、以前より有用性を認識している事業所は多いが、包括的な情報を整理するために 1,000 項目以上の項目を確認する労力やその分析についてのノウハウが欠けていた。また、ICT の活用は新型コロナウイルスの影響下で全国の現場で検討されているが、強度行動障害について取組んでいるものは少ない。

この 2 点について先進的な取組を行い、一定の効果をエビデンスとして確認できているツールを今回は試行的に導入するが、全国の強度行動障害者支援現場で実装できるかどうか、今後の検証が必要であると考えられる。

E. 結論

本年度の研究では、ICF と Observations を強度行動障害者支援の現場で試行するためのマニュアル作成を行った。

研究期間 2 年目(最終年)は、強度行動障害者支援を行っている事業所での試行を実施し、使い勝手や効果、課題などの検証を分析し、最終的な運用マニュアル作成に取り組んでいく

予定である。

【文献】

- 1) 安達潤：ICF の視点に基づく情報把握・共有システムの研究開発—知的障害・発達障害児者支援における多領域連携の実現に向けて— 発達障害研究 40 (4) : 336-351 (2018)
- 2) 安達潤, 吉川徹：ICF 情報把握・共有システムを活用した多領域連携が知的・発達障害の早期支援にもたらす効果—愛知県碧南市での社会実装研究を通じて— 小児の精神と神経 60 : (2020)
- 3) 井上雅彦, 中谷啓太, 東野正幸：行動上の問題に対する行動記録アプリケーション “Observations” の開発 行動分析学研究, 34 (1) : 78-86 (2019)

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

令和3年度厚生労働科学研究

強度行動障害者支援に関する効果的な情報収集と関係者による情報共有、支援効果の評価方法
の開発のための研究

ICF、ICTを活用したPDCAサイクル実施のための 運用マニュアル案

2021年3月

国立のぞみの園

① ICF システムへ記入し、全体像を把握する

使用するもの：ICF 情報把握・共有システム（以下、「ICF システム」）

取り組んでいただきたいこと：ICF システムを使用し、利用者の全体像を把握し、情報を整理する。

① ICF システムの「情報把握シート」を作成する

※情報把握シート「活動と参加」

ICF コアセット 活動と参加 17歳以上 情報把握シート 第1章						
「活動と参加」シート 3つの質問 記入のしかた						
① 支援なしの場合では ☐ 困難あり ☐ 困難なし ☐ 詳細不明・非該当						
質問1では、支援なしの場合でも困難があれば「困難あり」を選択して下さい。「困難なし」は、項目が示す内容を、支援なしでも自力で達成できる場合に選択して下さい。						
② いま支援があるかどうか ☐ 支援あり ☐ 支援なし ☐ スキップ						
質問2は、質問1で「困難あり」を選択した場合に回答可能となり、それ以外では「スキップ」が自動的に選択されます。支援のあり・なしについては、なにか少しでも支援をしていれば「支援あり」を、何もしていなければ「支援なし」を選択して下さい。						
③ 支援の効果は ☐ 大きい ☐ 小さい ☐ スキップ						
質問3は、質問2で「支援あり」を選択した場合に回答可能となり、それ以外では「スキップ」が自動的に選択されます。支援の効果については、困難さが軽減が認められており支援の継続あるいは微調整でよい場合には「大きい」を選択して下さい。困難さが軽減が認められなかったり少なかったりするため、今後の支援効果の見極めあるいは支援の修正が必要である場合には「小さい」を選択して下さい。						
第1章 学習と知識の応用						
1. 目的をもって（わかって）として、知ろうとして）五感（視・聴・嗅・味・触）を使うこと。						
項目番号	項目タイトル	支援なしで	いま支援は	支援効果は	チェック	補足情報
d110	目的をもって見る	困難あり	支援なし	スキップ	☐	① 注意深く物を見ることをせず、目移りが激しい。一方、興味のある家電などはじっと見ている。
d115	目的をもって聞く	困難あり	支援あり	大きい	☐	① 言語指示でも理解できることはあるが、複雑な言葉になると理解できず不安定になる ② 絵カードを提示する ③ 図カードを提示することで指示されていることがわかる
d120	目的をもって触る・嗅ぐ・味わう	困難あり	支援あり	大きい	☐	① 興味のある家電を触り、破壊する。 ② こだわりの強い家電機は除去し、本人の目につかないようにする。 ③ 必要な家電は、ケースに入れることで、破壊行為はない

- 対象となる利用者について、情報分析シートの各項目に沿って利用者の情報を記入する。
- シートのなかで、「活動と参加」、「環境因子」は必ず記入する。

【記入の際の留意事項】

- ・ 推測ではなく、事実をとらえるためのシートという観点で記入する。
- ・ 回答が難しい場合は、無理に回答しなくてよい。
- ・ 「補足情報」は利用者の状況が把握できるように、なるべく具体的に記入する。
- ・ 「わからない」「機会がないので判断できない」項目については、「詳細不明・非該当」を選択してよい。その場合、なるべく「補足情報」の「④その他」にその理由を記載しておく。

※情報把握シート「環境因子」

ICFコアセット 環境因子 17歳以上 情報把握シート 第1章			
第1章 製品と用具			
1.2. 食べ物や飲み物、薬や栄養補助剤			
項目番号	項目タイトルと環境因子の影響を把握する観点	状況	補足情報（当該項目の環境因子の具体的な影響）
e110a	食べ物や飲み物	把握状況	☐ ① 食事・生活下の食品とその状態：食品が腐る。食品があるため食べ物を捨ててしまふ食品が損ねない。水分摂取量に限りなく。水素水を飲み過ぎて嘔吐する ☐ ② 好影響：生活向上の食品とその状態：金銭面 ☐ ③ その他：納豆は、代用品で対応している。入浴後は喉が乾くため、入浴後の喉を潤す食品は提供している
	生活の下につながる食品をもちだすもの	あり	
	生活の向上につながる好影響をもたらしもの	あり	
e110b	薬や栄養補助剤	把握状況	☐ ① 好影響となる薬とその状態： 喉痛との関わりを求めたために自費診療を行い、薬を処方する ② 好影響となる薬とその状態：早期発見があるため、服薬の副作用を軽減し、喉痛の再発を予防する効果に期待 ☐ ③ その他：薬を飲む時間を決めることで、薬へのこだわりがなくなった。喉痛リズムが強い。喉痛発症がなくなった。
	喉痛発症下や生活の困り・不安につながる薬やサプリメントの摂取量	あり	
	喉痛発症向上と生活の維持につながる薬やサプリメントの好影響	あり	
1.3. 個人が日常生活や遊びで使う製品と用具			
項目番号	項目タイトルと環境因子の影響を把握する観点	状況	補足情報（当該項目の環境因子の具体的な影響）
e1150	日常生活で使う一般的な製品と用具（商品や特許を設計なし）	把握状況	☐ ① 不快・使いにくい日用品と生活しづらさ：家電製品全般。故障はあるが、使用方法がわからない（故障修理に費やしてしまう。特に洗濯機へのこだわりが強い） ☐ ② 不快・使いにくい日用品と生活しづらさ：CDラジカセ。クラシック音楽を聴いているときは話も聞いていることが多い ☐ ③ その他：洗濯機を壊すと嫌なため、洗濯機を壊さず、エアコンの故障に警戒。エアコンのフィルターは洗っている
	使用時の快適さや使いやすさで生活のしやすさをもたらす日用品	あり	
	使用時の不快さや使いやすさで生活のしやすさをもたらす日用品	あり	
e1151	日常生活で使うが安全を確保するために工夫・改良された製品と用具	把握状況	☐ ① 不快・使いにくい日用品と生活しづらさ：トイレの便座に座るための座面を常に汚すことが見られる。背もたれにクッション材を配置したが、体側の変位と後退時の危険が増えた ☐ ② 不快・使いにくい日用品と生活しづらさ： ☐ ③ その他：クッション材は撤去する
	使用時の快適さや使いやすさで生活に役立つ支援用具の日用品	なし	
	一般的な遊び用の製品と用具（改造や特許を設計なし）	把握状況	
e1152C	使うのが不快で使いづらいため遊びを妨げる遊び用の製品と用具	あり	☐ ① 不快・使いにくい遊び用具と遊ぶ環境：車の騒音は好きだが、距離が遠く、外出の機会が増える。自分自身が通らないことで不安になる。他の利用者に迷惑を被らしてしまう

② ICF システムの「情報把握シート分析アプリ」を使い、内容を整理する

コアセット版 ICF情報把握シート分析アプリ

ver1.21

分析する情報把握シートをクリック

活動と参加 0-5歳

環境因子 0-5歳

活動と参加 6-16歳

環境因子 6-16歳

活動と参加 17歳以上

環境因子 17歳以上

- 「ICF 情報把握シート分析アプリ」で、該当する項目（「活動と参加」「環境因子」など）をクリックする。
- 記入した情報把握シート（Excel）をアップロードする。

【強み（支援なしで困難なし）】

項目番号	項目タイトル	支援なしで	いま支援は	支援効果は	fz77	補足情報
d455	移動すること	困難なし	スキップ	スキップ	○	①歩行は自力で行える
d540a	衣服の着替え、履き物の脱ぎ履き	困難なし	スキップ	スキップ	○	①衣類の着替え、履き物の脱ぎは一人で行うことができる

【支援の修正（支援効果小さい（なし））】

項目番号	項目タイトル	支援なしで	いま支援は	支援効果は	fz77	補足情報
d132	質問して知ろうとすること。	困難あり	支援あり	小さい	○	①本人から声出しやジェスチャーで質問をしてくるが、表現が曖昧で理解困難 ②コミュニケーションシートを活用し、指さして要求内容を確認する ③コミュニケーションシートだけでは、本人の質問・要求の意図が汲み取れないことが多い
d155	日常生活に必要な行為やスキルの習得	困難あり	支援あり	小さい	○	①物の扱いの加減ができない ②自具の活用 ③こだわりが強く、一度獲得した方法を変更することが困難
d160	何かに注意を集中すること	困難あり	支援あり	小さい	○	①活動中に何度もトイレに行く ②タイマーを活用したり、活動終了後に本人の好きなものを取り入れることで仕事に集中できるようにする ③活動時間に変化はない
d161	課題や作業が終わるまで注意を逸らさないこと	困難あり	支援あり	小さい	○	①活動中に何度もトイレに行く・課題を壊す ②本人の興味関心のある課題内容に変更する ③初めは活動に集中できるが、途中から課題を逸し始める
d166	読むことの実生活での活用	困難あり	支援あり	小さい	○	①好きな車雑誌を見ることは好きであるが、文字を読むことはできない ②本人の好きな車の雑誌を定期的に提供する ③車の雑誌を見ることで外出の要求が多くなる

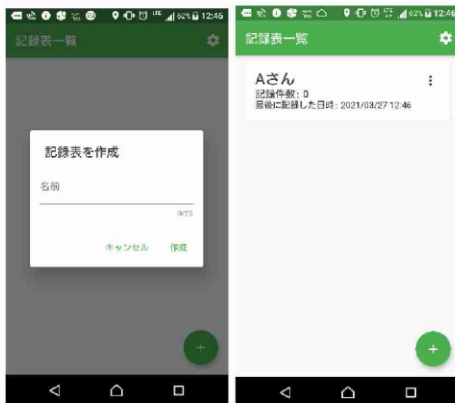
- 記入した内容が項目ごとに整理される。
- 項目ごとの内容を確認し、利用者の全体像の把握や支援に必要な視点などを整理する。

②利用者の担当者が、行動記録表を記入し、課題となる行動を選定する

使用するもの：Observations Sheet（スマホアプリ）

取り組んでいただきたいこと：1 週間の行動を記録し、課題となる行動を選定する

※課題となる行動は複数選択してもよい。



①名前を入力する

- 対象となる利用者の名前を入力する。
※名前は匿名で記入する。



②行動を記録する日を選択する

- 「記録表一覧」画面で、対象となる利用者を選択する。
- 行動を記録する日を選択する。



③行動を記録する

- 項目に沿って記録する。
- 項目は、「行動」「時間帯」「場所」「状況（人）」
「状況（行動）」「対応」「推定される機能」



④ 1 週間分の行動を記録する

- 対象期間とする 1 週間分の行動を記録する。

⑤ 課題となる行動を選定する

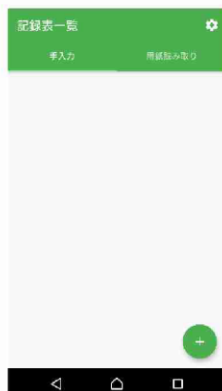
- 1 週間の記録を振り返り、課題となる行動を選定する。

③利用者の担当者が、課題となる行動のベースラインを記録する

使用するもの：Observations 2（スマホアプリ）

取り組んでいただきたいこと：行動の頻度や時間帯などを継続して記録する。

※記録を取る行動は、複数でも可。



①名前を入力する

- 対象となる利用者の名前を入力する。
※名前は匿名で記入する。



②記録する行動を入力する

- 作業②で選択した行動を入力する。
- 入力は、「記録する行動」「記録開始（時間）」「記録終了（時間）」「記録間隔」



← Aさん

< 2021/04/21 >

時間	頬をたたく	服を脱ぐ	水へのこだわり	大声	未観察
10:00	0	0	0	0	☒
10:30	2	0	0	0	☐
11:00	5	0	1	3	☐
11:30	0	0	0	1	☐
12:00	2	0	1	3	☐
12:30	1	0	0	1	☐
13:00	0	0	0	0	☐
13:30	0	0	0	0	☐
14:00	1	0	0	2	☐

③行動の頻度を記録する

- 記録する日を選択する
- 時間帯ごとに行動の回数を記録する



④スキャタープロットで行動の傾向を確認する

- 「測定時間における行動生起率」を確認する

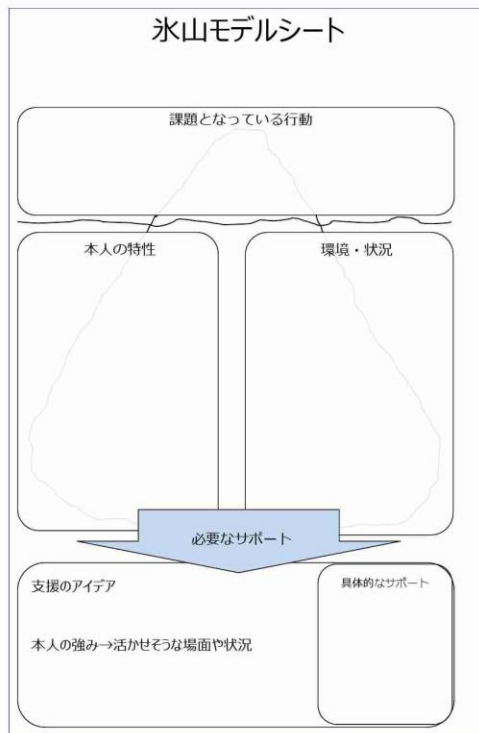
⑤行動の記録を積み重ねる

- 一定期間毎日継続して記録をとり、記録を積み重ねる。

④利用者の担当者が、冰山モデルシートを作成する

使用するもの：冰山モデルシート

取り組んでいただきたいこと：ICF（作業①）と記録（作業③）を踏まえて、課題となっている行動の背景を把握する



①「冰山モデルシート」に落とし込む

- 課題となっている行動について、冰山モデルの項目に沿って背景要因を分析する。
- 分析した内容をシートに入力する。
※項目は、「課題となっている行動」「本人の特性」「環境・状況」
- 必要なサポートを検討し、入力する。
※項目は、「支援のアイデア」「本人の強み→活かせるような場面や状況」「具体的なサポート」
- 作業③で複数の行動の記録を取った場合は、それぞれの行動に対して冰山モデルシートに落とし込む。

⑤利用者の担当者が支援手順書を作成する

使用するもの：支援手順書（事業所で使用しているもの）

取り組んでいただきたいこと：ICF（作業①）と記録（作業③）、冰山モデル（作業④）を踏まえて、必要な支援を検討し、支援手順書を作成する。

- 作業⑤までに支援会議を開催し、「ICF システム」や「Observations」の記録等を踏まえて、利用者の全体像の把握や行動の背景等について支援者間で共有することが望ましい。

⑥利用者の担当者が支援の実施および行動の記録をおこなう

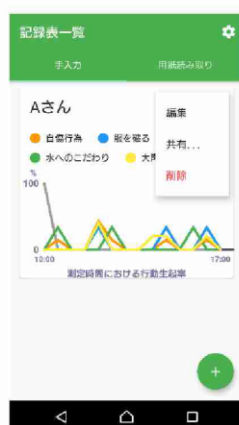
使用するもの：Observations 2（スマホアプリ）

取り組んでいただきたいこと：作業⑤で作成した「支援手順書」を基に支援を行い、作業③の記録を引き続き行う。

⑦記録を分析する

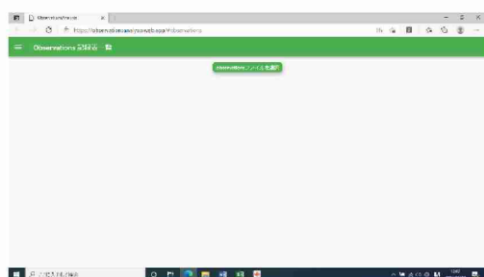
使用するもの：Observations の分析用 HP

（URL：<https://observationsanalysis.web.app/>）



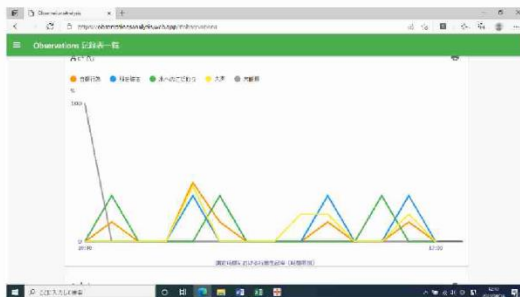
① アプリの記録を PC に送る

- これまでアプリ（Observations Sheet、Observations 2）で取った記録を、各記録の画面右上のメニューから「共有」を選択し、メールでデータを PC へ送信する。



② 分析用 HP にデータをアップロードする。

- Observations 分析用 HP を開き、記録のデータをアップロードする。



③ アップロードしたデータを確認し、分析を行う。

- 分析用 HP でアップロードしたデータを活用し、分析を行う。

⑧ ICF システムへ記入し、支援前後の全体像を比較する

使用するもの：ICF システム

取り組んでいただきたいこと：記録の分析を踏まえ、作業①で記入した ICF システムを見直し、支援前後の全体像を比較する。

- これまでの記録の分析を踏まえて、①の作業（ICF システムの情報分析シートの作成）を再度行う。
- 必要に応じて加筆修正を行い、見直しを行う。

⑨ 支援手順書を修正する

使用するもの：支援手順書（事業所で使用しているもの）

取り組んでいただきたいこと：これまでの作業を踏まえて、支援手順書の見直しを行う。

- 作業⑧を踏まえ、作業⑤で作成した支援手順書の内容を見直し、必要に応じて修正する。